

[ライブ・サーティ]

Live30

<https://www.omichikai.or.jp>

VOL.

232

2019年
夏号



CLOSE UP

健康ステーション「まなぶ」を開設

OMICHI ACADEMY

第1回CPフォーラム

第13回 国際リハビリテーション医学会世界会議

米國小児科学会学術集会 (PAS 2019 meeting)

OMICHI SCRAMBLE

吉田科長が大阪府看護事業功労者として表彰されました

「大阪市認知症介護実践者研修」実践報告会を開催

近代ボース概念小児領域8週間講習会を開催しました

INFORMATION

人間ドック健診施設機能評価の認定を更新しました

森之宮フェスティバルに参加しました



最優秀賞
「Live30」
福祉の発展に貢献するために
最も優秀であったと評価され、
日本一を讃えられます
日本経済新聞

小児から高齢者まで地域の方々の健康や介護を
最期まで総合的にサポートします

健康ステーション「まなぶ」を開設



医療を学ぶ、介護を学ぶ、暮らしを学ぶ

健康ステーション「まなぶ」

レンタルケア
おおみち

ケアプラン
センター
おおみち

訪問看護
ステーション
おおみち

訪問看護ステーション、ケアプランセンター、福祉用具レンタル等の介護保険事業を基盤として、小児から高齢者までの地域の方々の健康や介護を分野や疾病にとらわれず最期まで総合的にサポートする、それが健康ステーション「まなぶ」(以下、「まなぶ」)です。「まなぶ」は大道会の在宅事業所の一部が移転・統合した「訪問看護ステーションおおみち」、「ケアプランセンターおおみち」、「レンタルケアおおみち」の3事業所で構成され、2019年4月、森之宮第2団地6号棟に開設しました。

人は生涯、学ぶ生き物です。私達もまた、皆様の住み慣れた地域がより暮らしやすい町になるよう、地域の方々と一緒に様々なことについて学び続けたいと思い、「まなぶ」という名称にしました。私達は、医療・介護に関する技術を提供する一方で、利用者さんとのふれあいを通じて日々、様々なことを学ばせて頂いています。その学びを今後もこれまでと同様に、次回の技術に生かし、発展させたいと考えています。

健康ステーション 「まなぶ」の特長

3事業所が入る「まなぶ」の敷地は400㎡あり、居宅介護支援専門員以下、ケアマネジャー)7名、看護師16名、セラピスト10名、福祉用具相談専門員3名、事務職4名が在籍しています。新しい事務所で心新たに利用者さんの在宅医療・介護の支援を行っています。特長は経験豊富なスタッフが多数いることです。訪問看護、訪問リハビリテーションに精通したスタッフが多数在籍しており、小児から高齢者まで疾患を問わず、幅広く対応します。

訪問看護ステーションおおみち



意見を出し合い、自らのサービス提供に生かしています

訪問看護ステーションおおみちは、総勢31名のスタッフが所属している大規模な事業所となっております。日常的に全体打合せを行っています。各看護師

の担当する利用者さんに関する情報共有が行われ、ケアの進め方や課題の発見・共有、多職種で意見交換を行う重要な時間となっています。看護師16名中11名が看護師経験10年以上で、そのうち7名は訪問看護師経験が5年以上です。これら経験豊富な看護師がこれまでの様々な経験を生かし日々サービス提供を行っています。またリハビリテーションでは、3職種(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)による運動機能、精神・認知機能、摂食・嚥下・言語機能に対するリハビリテーションが可能です。全年齢に対応しており、看護師と連携しリハビリテーションによる終末期・緩和ケアを実施します。在宅での療養生活を自分らしく安心して過ごせるよう、利用者さんやご家族の気持ちに寄り添い、24時間365日体制で支援します。

ケアプランセンターのおみち



ケアマネジャー7名で、充実した支援を心掛けています

ケアプランセンターのおみちのケアマネジャーは、7名の内5名が主任居室介護支援専門員(以下、主任ケアマネジャー)の資格を有し、事業所として特定事業所加算Iを取得しています。主任ケアマネジャーは、ケアマネジャーの指導、育成、ケアプラン作成の際の支援や相談が求められるとともに、地域における課題の解決、地域発展に対する貢献が期待される資格です。今後とも、地域での役割をしっかりと果たしていけるようにしたいと思います。

レンタルケアのおみち



スタッフは全員女性です
仕事と家庭の両立は大変です

福祉用具は利用者の生活にとって関り深いものです。その分、選定作業においても、その方の症状や居住環境に合ったものを慎重に選ぶ必要があります。「まなぶ」には、生活動作の指導、助言を行うリハビリテーション専門職が多数在籍します。レンタルケアのおみ

ちのスタッフは、商品知識にプラスして、セラピストと協働し生活になじむサービス提供を心掛けています。今後とも個々の利用者さんに即したサービス提供を続けていきますので、どうかよろしく願います。

専門ケアチーム

「まなぶ」開設にあたり、疾患ではなく症状や状態に対応した「専門ケアチーム」を新たに立ち上げました。介護保険領域のサービスでは医療機関のように診療科目の分化は進んでいないため、比較的新しい取り組みだと考えています。具体的な類型としては「終末期・緩和ケア」、「小児ケア」、「摂食嚥下・栄養ケア」、「転倒予防」、「認知症ケア」チームの5つがあります。これらは、在宅生活の質を維持する上で非常に重要な要素であり、かつ、地域包括ケアの構築と質の向上を担保する上でも不可欠な支援だと考えています。在宅療養を阻害する課題に対し、多職種(ケアマネジャー、看護師、リハビリ3職種、福祉用具専門相談員)で構成したチームで取り組み、利用者の生活の質(QOL)を向上することを目的としています。私達は、得た技術を利用者さんへ還元し、その結果、利用者さんやご家族、地域が豊かになることを最終ゴールとしています。個人の自己研鑽はもちろんのこと、チーム内の各専門職が、

専門的知識と技能を最大限に発揮し、「まなぶ」の名に恥じないような活動ができるよう努力していきます。

今後の展望

現在の事業は、全業務の8割以上が介護保険を中心とした公的保険での活動となっています。この分野では、前述した専門ケアチームの他にも、「独居高齢者の方々をどう支えるか」や「排泄に伴う課題をどう解決するか」等、さらなる課題解決のためのチームを立ち上げる必要があると考えています。また、時間軸で考えると、夜間の介護負担や緊急対応等、在宅療養を脅かす課題は多くあり、これらについてもさらに手厚くサポートできるように内容を充実させたいと思っています。

公的保険以外の事業では、地域住民の方々はもちろんのこと、専門職、行政機関等を対象とした地域支援活動も活発に行いたいと考えています。今後の政策として、保健・予防分野に重点が置かれることが示唆されていますが、この領域においても当法人には必要な専門職が揃っていますのでぜひ、形にしたいと願っています。また、移転後、すでに多くの方からお声を頂いている、「気軽に相談できる場所」についても、どのような形なら実現できるのかを検討していますので、今後とも、よろしく願います。

発表報告

第1回CPPフォーラム



ボバース記念病院
院長
荒井 洋

若手からベテランまで、
活発な討論が行われました

日程：2019年3月2日・3日
場所：新大阪丸ビル別館

昨年設立されたNPO法人日本脳性麻痺・発達医学会(JACPD)が主催し、米国コロンビア大学ワインバーグファミリー脳性麻痺センターの共催の下に、第1回CPP(脳性麻痺)フォーラムが催されました。参加者は若手からベテランまで、情熱にあふれた医師、療法士、看護師の計203名で、通訳を交えて活発な討論が行われました。JACPDにはボバース記念病院から荒井が理事長、柴田副院長、北井小児神経科部長が理事として関わっています。

荒井による脳性麻痺治療総論の講演で始まり、コロンビア大学のRoye教授(整形外科)、Kim教授(リハビリテーション科)、Sarrafian先生(作業療法科)、松本寛子先生(臨床研究センター)、Linhares先生(精神神経科)による多彩な講演と症例検討が行われました。ランチョンセミナーでは、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの金城健先生(小児整形外科)が比較的新しい

治療法である選択の後根切断術や髄腔内バクロフェン注入療法について講演されました。

2日目は名城病院の川上紀明先生(整形外科)とRoye教授が脳性麻痺の脊椎手術に関する日米の現状の違いを述べられ、多くの職種がこの問題について理解を深め、早期に必要な治療が受けられるような体制が必要と訴えかけられました。最後はボツリヌス療法と、国際的に普及しているCI/HABIT療法に関するハンズオンセミナーが行われ、熱気に満ちた会の幕を閉じました。

来年はより規模を拡大し、東北大学(仙台)で行う予定にしています。



国際的に著名な演者の先生方と、
支えて下さった通訳、スタッフの方々

発表報告

米国小児科学会学術集会 (PAS 2019 meeting)



ボバース記念病院
診療部小児神経科部長
北井 征宏

早期産児の慢性ビリルビン脳症の臨床的特徴を発表

日程：2019年4月27日～29日
場所：ボルティモア

4月に米国、ボルティモアで開催された米国小児科学会学術集会(PAS 2019 meeting)にボバース記念病院の荒井院長とともに参加し、

「早期産児の慢性ビリルビン脳症」診断と予防」というシンポジウムで、同疾患の臨床的特徴について発表しました。世界でも屈指の症例数と治療経験を持つ当院のまとめには多くの参加者が興味を示し、周産期歴、画像診断に関して多くの質問を受けました。その他、ビリルビン脳症についての日本、米国、中国の現状及び治療、予防戦略についての発表があり、滋賀医科大学新生児科の柳先生が日本における黄疸の治療戦略及び遺伝的背景について発表されました。同学会の別セッションでは、成人された複数の慢性ビリルビン脳症患者自身が、それぞれにあったコミュニケーションツールを用いて発信されており、米国らしいと感じました。また、この分野でも遺伝子レベルでの研究が進んできていることを肌で感じました。周産期医療、画像診断、遺伝子診断等、高いレベルの医療を提供可能な日本において多種が連携し、同疾患に関する研究成果を世界に発信していくことの重要性を再認識しました。質の高いリハビリテーションを提供可能な当院では、症状の客観的評価、リハビリ

テーションや抗痙縮治療の有効性についてさらに研究を進め、患者家族の生活の質向上につなげていきたいと思えます。



プレゼンテーションを行う
北井医師

発表報告

第13回国際リハビリテーション 医学会世界会議



森之宮病院診療部
神経内科
藤本 宏明

人工筋を用いた左右独立体重
免荷ロボットを研究、発表

日程：2019年6月11日～13日
場所：神戸コンベンションセンター

神戸で開催された第13回国際リハビリテーション医学会世界会議(ISPRM2019)に参加し、歩行リハビリロボットについて発表しました。一般的に、歩行障害には体重免荷トレッドミル歩行練習が有効であるとされていますが、従来の体重免荷方法では左右同時に免荷し続けるため、各歩行サイクルに対する最適な免荷量が調整できませんでした。そこで、森之宮病院と国際電気通信基礎技術研究所(ATR)が共同研究を行い、人工筋を用いた左右独立体重

免荷ロボット[Intelligent-BWS]を開発しました。これは、左右に設置した人工筋を用いて、歩行サイクルに合わせて左右別々に体重免荷することを可能とした歩行リハビリロボットです。今回は、脳卒中後片麻痺によって歩行に障がいがあるリハビリ入院中の方にご協力頂き、このロボットで安全に歩行パターンを調整できることを確認しました。発表時間は2日間で1時間ずつでしたが、発表終了後、実物ロボット展示ブース内で世界中の著名な研究者と歩行リハビリロボットについて議論でき、有意義な学会参加となりました。今後、重症度に合わせた最適な歩行練習システムの確立をめざし、少しでも多くの方の歩行機能改善に役立てたいと思います。



学会終了時に、実物ロボットを展示したブース前で研究メンバーが集合

発表報告

世界理学療法連盟学会
(WCPT Congress 2019)



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科主任
藤田 良樹

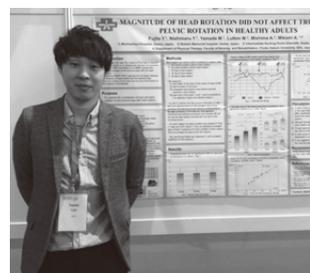
「立位時の頭部回旋角度の変化は体幹・骨盤に影響を与えない」をテーマに発表
日程：2019年5月10日～13日
場所：スイス・ジュネーブ

今回、私はスイスで開催された世界理学療法連盟学会で、ポスター発表を行いました。

テーマは「MAGNITUDE OF HEAD ROTATION DID NOT AFFECT TRUNK OR PELVIC ROTATION IN HEALTHY ADULTS(立位時の頭部回旋角度の変化は体幹・骨盤に影響を与えない)」で、日々の臨床業務の中で立位・歩行時の方向転換の際にバランスを崩し、転倒要因につながる対象者を経験した背景から研究を行いました。

世界理学療法連盟学会は2年に1回開催される国際学会で、総勢1万名以上の理学療法士が参加します。私は2015年シンガポールでの世界理学療法連盟学会に続き、2回目の発表となりました。具体的な発表内容は頭部回旋時、回旋方向とは逆方向への重心移動が生じ、その際、体幹や骨盤は回旋の影響を受けないことの報告です。また発表時には、オーストラリアやフィンランド、イギリス、南アフリカのセラピストから質問を受け、脳卒中後遺症後の転倒予防の観点からディスカッションを深めることができ、今後の研究につなげていくきっかけとなりました。

た。今回の世界理学療法学会は2021年にドバイ、2023年には東京で開催されるため、今後も継続的に学会発表や論文投稿へつなげていきたいと思っています。



活発なディスカッションが行われました

参加報告

災害時のBCP研修



森之宮病院事務部
庶務課
宮城 誠

災害時の被災状況を想定し対策について意見を交換

日程：2019年3月14日
場所：住友不動産猿楽町ビル

近年、自然災害が頻発しています。が、医療機関としての災害対応業務は、被災によるライフライン等の業務リソースに制約があるなか、通常より多くの業務が発生します。災害時の制約下での対応計画、事業計画継続(BCP)が国からも、周辺地域からも求められ、災害医療に対して病院機能を維持し、地域防災・復興等の機能を発揮するためには、事業継

続計画の策定が必要です。

今回の研修では、災害時に発生する可能性の高い8つの被災状態を想定し、対策についてグループワークを行いました。災害発生時の状況の確認、災害対策本部等の設置、業務継続の優先順位付け、電子カルテの停止、上下水道の停止、ガス配管の破損、また、被災後も継続的に治療にあたる医療従事者への対応や、災害拠点病院からの受け入れ要請について、それぞれ意見を出し合いました。診療の継続の可否、適切な災害対策本部の設定・対応、被災状況の正確な把握、上下水道の停止時の代替策・飲食物の備蓄、医療ガスの備蓄・企業との連携、行政・災害医療機関との連携が重要となること意見として上がりました。

被災後の病院機能の維持は、リスク対策+計画×対応力+事業継続力の強化、設置が非常に重要となってくるということが理解できました。これらを事前に策定することで、病院機能を通常に近い機能へ回復させる時間を早めることができます。今後は、森之宮病院のBCPを策定し、そこから出てきた新たなリスクを都度改善していくことで、より現場に即したBCPを作り、医療機関として、地域の防災・復興に寄与する計画を、診療部・看護部・診療技術部・施設管理部門・事務部が共同で策定することが必要となることを学びました。

(配属役職等は発表・参加当時のものです)

グリーン
ライフ

第11回グリーンライフ・ ボバース記念病院歯科診療部 実践報告会を開催

3月8日に、ボバース記念病院歯科診療部と合同で実践報告会を森之宮病院2階ウツディーホールにて開催しました。毎年開催される実践報告会も今年で11回目です。実践報告会では、各職種による様々な取り組みを約1年通して行い、その内容をまとめ、発表しています。「リハビリ職と介護職との

チーム連携」、「緊急時対応」、「在宅復帰支援」等、今年は7題の演題発表と2題の報告がありました。

今後も実践報告会を継続し、スタッフの知識や技術を向上させ、他部署と情報共有を行いながらより良いケアを提供できるように励んでいきたいと思っています。



発表を熱心に聞く職員

(グリーンライフ療養サービス部療養二科 稲見充浩)

森之宮病院

吉田科長が大阪府看護事業 功労者として表彰されました

5月12日(ナイチンゲールの誕生日)が「看護の日」として制定されたのは1990年のことです。その「看護の日」に合わせ、大阪府では大阪府看護事業功労者表彰式が行われます

表彰式は5月11日に開催され、森之宮病院の吉田ひろみ科長が受賞の栄誉に輝きました。感染管理認定看護師として、院内外で講師を務める等の活躍

は大きく、また、法人内での感染に関しての教育や指導等についても部署横断的に活動しています。このような成果を認めて頂けたことを森之宮病院看護部としても誇りに感じます。さらなる活躍・発展を期待しています。

(森之宮病院看護部部长 柴田まゆみ)



受賞者の顔が輝いていました



看護師の祖
ナイチンゲール像の前にて

サンローズ
オオサカ

「大阪市認知症介護 実践者研修」 実践報告会を開催

4月16日、サンローズオオサカにて、「大阪市認知症介護実践者研修」の報告会を行いました。この研修は、実務者による認知症介護技術の向上を図るための「実践者研修」と、若手の認知症介護専門職員の育成を考える「リーダー研修」があり、認知症高齢者に対する介護サービスの充実を図ることを目的としています。職員がひとりの認知症の利用者さんに寄り添いながら不安を取り除き、施設や自宅で安心して過ごしていただくために出来ることは何かを感じ取り、考え、学ぶことが出来ました。今回は、昨年度にこの研修を受講した4名が代表となって研修の成果を発表しました。

当日、発表者はソワソワ落ち着きがなく、ブツブツと独り言を繰り返し、頭の中でイメージを膨らましていた様子でした。パワーポイントを作成する事が初めての者もあり、緊張や期待が一杯の中、研修で学んだ事、自施設での実習の成果等を精一杯発表しました。グリーンライフからも14名が出席し、有意義な報告会となりました。この経験を生かし、今後も職員一体となって取り組んでまいります。

(サンローズオオサカ在宅サービス課主任 石原恵)



大勢の聴衆の前で発表する様子

近代ボバース概念小児領域8週間講習会を開催しました

1月14日～3月8日に、「近代ボバース概念小児領域8週間講習会」を開催しました。本講習会は地域生活を総合的に支援する理念と実績のもと、すべての障害児療育のニーズに応えるため、臨床実践トレーニングとしてボバース概念の理論と知識背景及び実技を伝達指導し、小児領域リハビリテーション事業の発展をはかろうとする講習会です。

講習内容は主に講義・実技・グループ討論と発表・治療実習で構成されています。講義では、ボバース概念の3本の柱である『姿勢コントロールシステム』、『感覚システム』、『運動学習と小児リハ』に必要な定型発達、脳性麻痺のタイプ別の特徴や治療原則、ADL、摂食、コミュニケーション、整形外科的治療、器具、装具等の幅広い知識を習得することが出来ます。

今回の講習会には、北海道から鹿児島まで全国から26名が参加し、その中には2名の医師もおられ、



実際のリハビリ場面の映像を見ながら学ぶ受講者

様々な視点から学ぶことができました。修了後には自身の臨床の幅が広がったと感じています。今回得たものを後輩へと伝達し、ボバース記念病院リハビリテーション部を盛り上げていきたいと思えます。

(ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科 進戸健太郎)



森之宮病院 登録医 紹介

30



たるみファミリー
クリニック

垂水 泰元 医師

〒536-0024

大阪市城東区中浜3-24-7

M&Cビル3階

06-6180-5578

内科、糖尿病内科、腎臓内科

垂水院長は、平成11年金沢医科大学をご卒業後、関西医科大学第2内科にご入局されました。その時の教授より専門を超えて総合的に診察してほしいと期待され、循環器内科・内分泌内科・腎臓内科を中心に幅広く対応されました。その後は病院の透析部門の立ち上げに携わる等ご活躍され、平成26年にたるみファミリークリニックを開院されました。

「患者さんを家族だと思って診察に臨みたいと思い、たるみファミリークリニックと名付けました。本音で話したいので厳しい事を伝える時もありますが、スタッフ皆で患者さんを笑顔にしてご帰宅頂けるよう心掛けています。」垂水院長は常に相手と同じ目線に立つ事を大切にされており、しっかりと相手の話を聞き、その上で分かりやすく現在の状態・今後についてお話しされます。院内はご自身で設計され、待合室には靴を脱いで上がれる畳のスペースがあり、医療機器もFMD検査・デジタルレントゲン・エコー等、大変充実しています。「患者さんを待たせないよう来院された時から常に配慮しています。検査も必要な分だけ行い、患者さんにとって一番良い診療を提供できるよう尽力しています。」と笑顔でお話しされました。

最後に、森之宮病院へ一言。「いつもお世話になっています。地域医療のために手をつないで頑張っていきましょう。今後もよろしくお願ひ致します。」(森之宮病院診療部地域医療連携室 戸田梨香子)

人間ドック健診施設機能評価の認定を更新しました

日本人間ドック学会の人間ドック健診施設機能評価の認定更新を受審しました。今回で4回目の認定更新であり、機能評価もVer.4となります。訪問調査で準備した100を超える書類のファイルや審査の効率をあげる為に作成した厚さ15cm以上にも及ぶ説明用ファイルには、項目別にクリニックの特徴と説明をびっしり書き込み、対応いたしました。

審査内容は第1～第3領域に分かれ、大項目は14、中項目は44、小項目では96を数えます。今回の大きな変更点は、受診者対応や画像の精度管理、結果説明、保健指導、フォローアップ等が厳格にチェックされるようになったことです。各部署の

協力もあり、追加資料の提出も一切なく認定更新が承認されました。職員一丸となったチームワークがなければ成し得なかった事でもあります。今後も、施設機能の充実と継続のために全力で取り組んでいきたいと思っております。

(帝国ホテルクリニック統括部長 宮本博之)



認定の盾は受付横に展示しています

森之宮フェスティバルに参加しました

5月26日、好天の下、森之宮小学校において地域活動協議会の主催する森之宮フェスティバル&健康まつりが開かれました。当法人からは、本部資材課・施設課、森之宮病院看護部・事務部・相談室の有志が参加し、骨密度や血管年齢測定等のブースを担当しました。予想をはるかに超える大盛況に驚きながらも、「今まで測ったことのない機械が多かったので来て良かった」、「この結果を参考にしたい」「これを持って病院に行ってみる」等のお言葉を頂き、取り組みの成果を感じました。残念ながら測定頂けなかった方もおられ、次の機会にはぜひ

とも体験頂けるよう、引き続き地域の皆さんとともに活動していきたいと思っております。

(本部資材施設部資材課課長 阪本晃成)



健康相談も兼ねた血圧測定が好評でした

編集後記

今年も猛暑が続いていますが、皆さん体調お変わりないでしょうか？新入職の方も業務に慣れてきた頃だと思います。夏は花火大会やビアガーデン、枝豆といった風物詩が多くありますが、飲み過ぎない程度に暑さに負けず頑張りましょう。

(森之宮病院画像診断部画像診断科 高見梓)

Live30【ライブ・サーティー】
2019年夏
vol.232

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

●本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー

親切丁寧に（受診者・お客様・ご利用者）
待たさない／よく説明する／
連携する

■社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ポバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンターおおみち

☎06(6964)5285

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■社会福祉法人山手学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

☎06(6974)7377